

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2020年12月30日(30.12.2020)



(10) 国際公開番号

WO 2020/262147 A1

(51) 国際特許分類:
A45D 40/00 (2006.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2020/023770

(22) 国際出願日: 2020年6月17日(17.06.2020)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願 2019-119162 2019年6月26日(26.06.2019) JP

(71) 出願人: 株式会社 資生堂 (**SHISEIDO COMPANY, LTD.**) [JP/JP]; 〒1040061 東京都中央区銀座7丁目5番5号 Tokyo (JP).

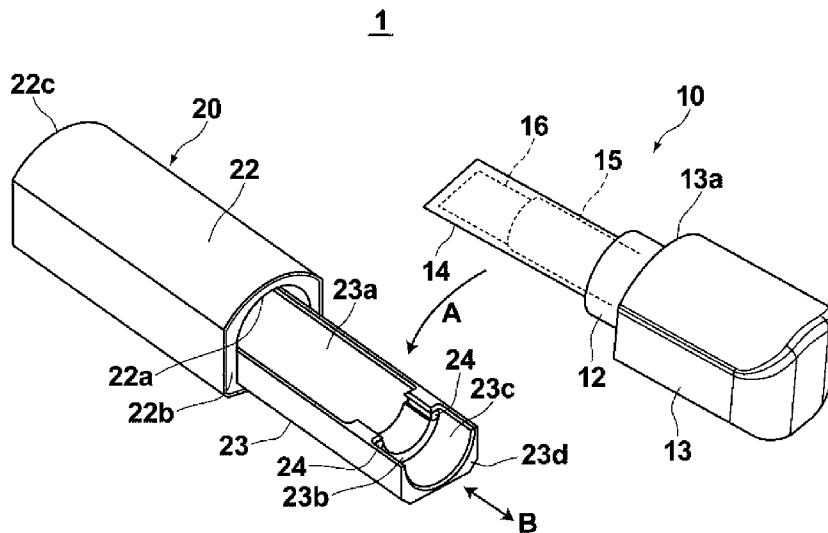
(72) 発明者: 小橋 佳彦 (**KOBASHI, Yoshihiko**); 〒1040061 東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会社資生堂内 Tokyo (JP).

(74) 代理人: 柳田 征史, 外(**YANAGIDA, Masashi et al.**); 〒2220033 神奈川県横浜市港北区新横浜3-23-3 新横浜 A Kビル 5階 柳田国際特許事務所 Kanagawa (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JO, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

(54) **Title:** ROD-SHAPED BASE MATERIAL CONTAINER

(54) 発明の名称: 棒状基材容器



(57) **Abstract:** [Problem] To facilitate positioning between a rod-shaped base material holder and a cap in a rod-shaped base material container configured such that a rod-shaped base material such as lipstick held by the rod-shaped holder is stored within the cap. [Solution] A rod-shaped base material container (1) comprises a rod-shaped base material holder (10) and a cap (20). The cap (20) comprises: a storage box (22) having an opening (22a) at one end (22b) in the lengthwise direction; and a tray (23) that is able to slide in the lengthwise direction relative to the storage box (22) so as to move in and out of the opening (22a). At a predetermined position in a portion of the tray (23), a holder holding means is provided which is disposed so as to be removable from above and which comprises a magnet (24) and the like for holding the rod-shaped base material holder (10).

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

一 国際調査報告 (条約第21条(3))

(57) 要約: 【課題】棒状基材ホルダーに保持させた口紅等の棒状基材を、キャップの内部に収めるようにした棒状基材容器において、棒状基材ホルダーとキャップとの位置合わせを容易にする。【解決手段】棒状基材ホルダー(10)とキャップ(20)とからなる棒状基材容器(1)において、キャップ(20)を、長さ方向の一端(22b)に開口(22a)を有する収容箱(22)と、開口(22a)から出退するように収容箱(22)に対して長さ方向に摺動自在とされた受皿(23)とから構成する。そして、受皿(23)の一部の所定位置に上方から取り外し自在に載せられた棒状基材ホルダー(10)を保持する磁石(24)等からなるホルダー保持手段を設ける。

明 細 書

発明の名称： 棒状基材容器

技術分野

[0001] 本発明は棒状基材容器、より詳しくは、口紅のような棒状基材を収容する容器に関するものである。

背景技術

[0002] 従来、棒状の口紅が広く実用に供されている。周知の通りこの種の口紅は多くの場合、使用者によって把持される把持部と、この把持部に保持された中筒とを有するホルダーを利用して取り扱われている。詳述すれば、棒状の口紅は、このホルダーの中筒に一端部が収容された状態とされ、使用者はこのホルダーの把持部を把持しながら、中筒外に出させた口紅の他端部を塗布に用いる。

[0003] 一般にこの種のホルダーは、口紅使用时以外の携行や保管時には口紅を露出させないように、口紅ごと中筒を内部に収めるキャップと合わせて利用される。つまりこの場合は、上記ホルダーとキャップとから口紅容器が構成されている。このような口紅容器を構成するキャップとして、多くは有底円筒状の簡単な形状のものが適用されているが、特別な目的に合わせて、それ以外の形状とされたキャップも提案されている。

[0004] 例えば特許文献1には、一端が開口とされた四角い箱状に形成され、ホルダー（容器本体）に保持された口紅を上記開口から受け入れるように構成されたキャップが示されている。このキャップは、4つの側面の1つに、化粧用の鏡を保持した鏡板を枢支するために、上述のような箱状に形成されたものである。また特許文献2には、口紅を保持した円筒状のホルダー（容器本体）を受け入れる開口を一端に有し、そして1つの側面に概略長さ方向、つまりホルダーを受け入れる方向に延びる器部を有する箱状のキャップが示されている。このキャップは、上記器部に化粧用筆を嵌合収容し、そして上記と同様の鏡板を枢支するために、上述のような構造とされたものである。

[0005] 上述のように箱状に形成されたキャップを備えた口紅容器は、有底円筒状のキャップを口紅部分に被着するようにした従来の多くの口紅容器と比べると、キャップの形状が明らかに相違することから、さらには、箱状のキャップをテーブル等の上に置いた状態でキャップを着脱できることから、「特別なもの」ひいては「高級なもの」といった商品イメージを備え得るものとなっていた。

先行技術文献

特許文献

[0006] 特許文献1：実全昭56-069210号公報

特許文献2：実全昭55-105009号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0007] しかし、以上説明したように、側面の全体あるいは一部が平らに形成された箱状のキャップを有し、その一端の開口から口紅を受け入れるように構成された従来の口紅容器においては、テーブル等の上に置いたキャップ内に口紅を收容させる際に、キャップの開口に対して口紅の位置が少しズレたりしていると、キャップの開口周囲部分を口紅で汚すといった、好ましくない事態を招くことがある。そのため、従来のこの種の口紅容器のキャップ内に口紅を收容させる際には、キャップの開口に対して口紅の位置をある程度正確に合わせるか、あるいは、それが面倒な場合は、口紅を口紅容器の中筒内に收容した状態（つまり口紅が中筒から繰り出していない状態）にして、キャップ内に口紅を收容させるようにしていた。

[0008] 上記のように、キャップの開口に対する口紅の位置に注意を払ったり、口紅を口紅容器の中筒内に收容したりすることは、いずれも煩わしいことから、この種の従来の口紅容器は使い勝手が良くないものとなっていた。

[0009] 以上、口紅容器における問題について説明したが、上述のようなキャップとホルダーとからなる容器は、口紅以外の棒状基材、例えばスティック糊用

の容器としても適用されており、その場合も上記と同様の問題が起こり得る。

[0010] 本発明は上記の事情に鑑みてなされたものであり、口紅等の棒状基材を棒状基材ホルダーに保持させ、棒状基材をキャップの内部に収めるようにした棒状基材容器において、棒状基材をキャップの内部に収める際の煩わしい操作を不要にして、使い勝手を良くすることを目的とする。

課題を解決するための手段

[0011] 本発明による棒状基材容器は、

棒状基材を収容する中筒と、この中筒を保持する把持部とを有する棒状基材ホルダー、および、この棒状基材ホルダーの中筒を内部に収めるキャップからなる棒状基材容器であって、

キャップが、長さ方向の一端に開口を有する収容箱と、上記開口から出退するように収容箱に対してその長さ方向に摺動自在とされた受皿とから構成され、

受皿の一部の所定位置に上方から取り外し自在に載せられた棒状基材ホルダーを保持するホルダー保持手段が設けられ、

受皿に棒状基材ホルダーを保持させてから受皿を収容箱に押し込むことにより、中筒を収容箱内に収めるように構成された、
ことを特徴とするものである。

[0012] なお、上述の「受皿を前記収容箱に押し込む」とは、受皿を直接押して収容箱に押し込むことに限らず、受皿に保持された棒状基材ホルダーの一部、例えば把持部を押して間接的に受皿を押し込むことも含むものである。

[0013] 上記棒状基材ホルダーの把持部は、中筒が収容箱内に収められた状態において、該収容箱の開口を閉じるように構成されていることが望ましい。また収容箱の他端、つまり受皿が出退する開口が設けられた一端とは反対側の端は、閉じられていることが望ましい。また上記ホルダー保持手段は、棒状基材ホルダーおよび受皿にそれぞれ取り付けられて互いに磁力で吸着する手段から構成されるのが望ましい。

[0014] 一方、上記受皿の裏面には、棒状基材の使用に関わる用具が取り付けられていてもよい。具体的には、棒状基材が前述した口紅である場合に、鏡や口紅塗布用筆等の化粧用品を取り付けておくことが挙げられる。そうする場合、当然ながら化粧用品は、受皿の収容箱に対する摺動を妨げないようにして取り付けられる。

発明の効果

[0015] 本発明による棒状基材容器においては、キャップが、長さ方向の一端に開口を有する収容箱と、上記開口から出退するように収容箱に対してその長さ方向に摺動自在とされた受皿とから構成されているので、受皿は特に収容箱に対して位置合わせをしなくても、収容箱内に正しい位置を保って収められる。そして、このような受皿の一部の所定位置に載せられた棒状基材ホルダーを保持するホルダー保持手段が設けられているので、収容箱に収める前の受皿の所定位置に棒状基材ホルダーを載せるだけで、棒状基材ホルダーは受皿に対して所定の位置に保持される。そこで、次に受皿を収容箱に押し込めば、棒状基材ホルダーは、キャップに対して煩わしい位置合わせを行わなくても、正しい位置を保ってキャップ内に収められるようになる。そうであれば、キャップの開口周囲部分を口紅等の棒状基材で汚すこともないので、棒状基材をキャップの内部に収める際に、棒状基材を中筒内に収容しておく操作も不要となる。

[0016] また本発明による棒状基材容器は、キャップが、長さ方向の一端に開口を有する収容箱を備えて構成されているので、箱状のキャップを有する従来の棒状基材容器（例えば口紅容器）と同様に、「特別なもの」、「高級なもの」といった商品イメージを備え得るものである。本発明による棒状基材容器は、それに加えて、棒状基材ホルダーが受皿の一部の所定位置に上方から取り外し自在に載せられ得るものとなっているので、棒状基材をキャップの内部に収める際に、棒状基材ホルダーは、収容箱の開口に通すような操作は必要としないで、受皿の上に載せるだけの操作で所定位置に配されるようになる。このときの操作感からも、上記商品イメージをより顕著なものとするこ

とができる。

図面の簡単な説明

[0017] [図1]本発明の第1実施形態による棒状基材容器を示す斜視図

[図2]上記棒状基材容器の一部を、図1とは異なる方向から見た状態を示す斜視図

[図3]棒状基材をキャップに収納する前の状態にある上記棒状基材容器を示す斜視図

[図4]棒状基材をキャップに収納した後の状態にある上記棒状基材容器を示す斜視図

[図5]本発明の第2実施形態による棒状基材容器を示す斜視図

[図6]図5とは異なる状態にある上記第2実施形態の棒状基材容器を示す斜視図

発明を実施するための形態

[0018] 以下、図面を参照して本発明の実施形態について説明する。図1は、本発明の第1実施形態による棒状基材容器1を示す斜視図である。この棒状基材容器1は一例として口紅容器であり、棒状基材ホルダー10と、この棒状基材ホルダー10の一部を内部に収めるキャップ20とから構成されている。棒状基材ホルダー10およびキャップ20は、例えば合成樹脂から形成されている。棒状基材ホルダー10は、概略円筒状の外筒（中具）12と、この外筒12を保持したホルダー本体13と、一端側が外筒12の内部に保持された中筒14と、中筒14と同軸状にして該中筒14の内部に配された概略円筒状の中皿15とを有している。

[0019] 上記中皿15には、棒状基材の一例である棒状の口紅16が保持されている。ホルダー本体13内には、このホルダー本体13と中皿15とに連結された公知の螺旋繰り出し機構（図示せず）が配置されている。口紅使用者が中筒14を指先で把持しながらホルダー本体13を回転させると、螺旋繰り出し機構の作用により、中皿15が中筒14の中で筒軸方向に移動する。中皿15の移動方向は、ホルダー本体13を回転させる方向に応じて切り替わ

る。こうして口紅使用者は、中皿 15 に取り付けられている口紅 16 を中筒 14 から突出させ、また反対に中筒 14 内に收容させることができる。以上の説明から明らかな通り、本実施形態ではホルダー本体 13 が、棒状基材ホルダー 10 の把持部として機能する。

[0020] 一方キャップ 20 は、概略細長い箱状に形成された收容箱 22 と、この收容箱 22 の内部空間に收容され得る受皿 23 とから構成されている。上記棒状基材ホルダー 10 はこのキャップ 20 に対して、矢印 A 方向に動かして組み合わされる。この点に関しては後に詳述する。またキャップ 20 については、図 1 におけるのとは上下逆にして見た状態を図 2 に示している。以下、この図 2 も参照して説明を続ける。

[0021] 收容箱 22 は長さ方向の一端に開口 22 a を有しており、上記内部空間はこの開口 22 a から内方に延びている。つまりこの内部空間は、開口 22 a の有る收容箱 22 の一端 22 b と他端との間で延びている。收容箱 22 の他端には、内部空間を閉じる端板 22 c が形成されている。なお、一般にはこのような端板 22 c が形成されるのが望ましいが、收容箱 22 の他端でも内部空間が開口しているようにしてもよい。收容箱 22 には平坦な底板 22 d が形成されている。棒状基材ホルダー 10 をキャップ 20 内に収め、あるいは反対にキャップ 20 から取り出す際には、例えば、この底板 22 d がテーブル等の上に載った状態（図 1 の状態）に收容箱 22 を配して作業することができる。

[0022] 上記受皿 23 は、上方が開いた概略凹字状の断面形状を有するものであり、基端側から先端側にかけて底面上には、棒状基材ホルダー 10 の中筒 14 が載置される中筒載置部 23 a、段部 23 b、棒状基材ホルダー 10 の外筒 12 が載置される外筒載置部 23 c が形成されている。段部 23 b の上端近傍位置において該段部 23 b の左右側部には、それぞれ磁石 24 が固定されている。受皿 23 は、上記開口 22 a から出退するように收容箱 22 に対してその長さ方向、つまり図 1 および図 2 中の矢印 B 方向に摺動自在とされている。收容箱 22 の内部空間の周壁は、受皿 23 の外底面や左右外側面の他

に、左右側板の上面の一部等にも、摺動可能状態を保って接する形状とされている。それにより受皿23は、矢印B方向と交わる方向には大きく動くことなく、矢印B方向に円滑に移動可能となっている。

[0023] 口紅16を保持している棒状基材ホルダー10の中筒14は、以下の通りにして、キャップ20の収容箱22内に収容される。例えば化粧に使用された後の棒状基材ホルダー10は、前述のようにして口紅16を中筒14の中に収容させた後、図1の矢印A方向に動かして、収容箱22から引き出されている受皿23の一部の所定位置に載置される。本実施形態においてこの所定位置は、受皿23の段部23bの端面に、棒状基材ホルダー10の外筒12の端面が接するようになる位置である。この所定位置に棒状基材ホルダー10が配されると、ホルダー本体13の内側の端面13aも受皿23の前端面23dに接する。そこで、これらの2箇所においてそれぞれ端面同士が接していることを確認するだけで、棒状基材ホルダー10を受皿23上の所定位置に正しく、かつ容易に載置することができる。

[0024] なお、ここでは上述の通り棒状基材ホルダー10を、口紅16を中筒14の中に収容させてから受皿23の上に載置させているが、口紅16を中筒14の外に繰り出した状態のまま棒状基材ホルダー10を受皿23の上に載置させても構わない。つまり棒状基材ホルダー10は上記の通り受皿23上の所定位置に正しく載置可能であるから、口紅16が中筒14の外に繰り出しても、その口紅16が、収容箱22の開口22aの周囲部分等を汚すようなことはない。

[0025] 上記のように棒状基材ホルダー10を、図1の矢印A方向に動かして受皿23の所定位置に上から載置できること（つまり、棒状基材ホルダー10を開口22aに通すような操作は不要であること）、そして、底板22dがテーブル等の上に載った状態に収容箱22を配して作業できることは、前述したように棒状基材容器1に「特別なもの」、「高級なもの」といった商品イメージを与え得るものである。

[0026] 受皿23上の所定位置に棒状基材ホルダー10が載置されると、外筒12

の中筒 14 側の端面に一端面が整合する状態にして該外筒 12 の内部に固定されている鉄製リング（図示せず）が、受皿 23 に取り付けられている 2 つの磁石 24 と吸着する。それにより棒状基材ホルダー 10 は、受皿 23 上の上記所定位置に保持される。これらの鉄製リングと磁石とが吸着すること、棒状基材ホルダー 10 が受皿 23 上の所定位置に載置されたことを確認する手助けとなり得る。このように本実施形態では、上記鉄製リングと磁石 24 とによって、ホルダー保持手段が構成されている。こうして棒状基材ホルダー 10 が受皿 23 上の所定位置に載置、保持された状態を、図 3 に示している。なおこの図 3 において、先に説明した図 1 および図 2 中のものと同等の要素には同番号を付してあり、それらについての説明は、特に必要の無い限り省略する（以下、同様）。

[0027] 次いで、例えば棒状基材ホルダー 10 のホルダー本体 13 を収容箱 22 の方に押すことにより、受皿 23 が収容箱 22 の内部空間に完全に押し込まれる。この状態を図 4 に示している。この状態になると、棒状基材ホルダー 10 の口紅 16 を保持している中筒 14 は、キャップ 20 の収容箱 22 内に収容される。またこの状態になると、ホルダー本体 13 の端面 13a が収容箱 22 の一端 22b と接して、ホルダー本体 13 が収容箱 22 の開口 22a を閉じる。そこで、収容箱 22 の内部にゴミや埃などが入ることが防止される。次に口紅 16 を使用する際には、以上説明した手順と逆の手順の作業を行うことにより、棒状基材ホルダー 10 をキャップ 20 の受皿 23 から取り外して用いることができる。

[0028] なお本実施形態においては、受皿 23 の所定位置に載せられた棒状基材ホルダー 10 を保持するホルダー保持手段として、該棒状基材ホルダー 10 の外筒 12 を保持する手段（磁石 24 および鉄製リング）が用いられているが、ホルダー保持手段としては、棒状基材ホルダー 10 の外筒 12 以外の部分、例えば中筒 14 等を保持する手段が用いられてもよい。またホルダー保持手段自体も、互いに磁力で吸着する手段に限らず、機械的な手段、例えば弾性を有する細い鋼線等から形成されて棒状基材ホルダー 10 の一部を押える

クリップ等も適用可能である。また互いに磁力で吸着する手段も、本実施形態における磁石 24 と鉄製部材からなるものの他、その他、磁石と磁石とからなるものも適用可能である。

[0029] 次に図 5 および図 6 を参照して、本発明の第 2 実施形態による棒状基材容器 2 について説明する。図 5 はこの棒状基材容器 2 を構成するキャップ 40 に、棒状基材ホルダー 30 に保持された口紅 36 が収容される前の状態を示し、図 6 はキャップ 40 に口紅 36 が収容された後の状態を示している。棒状基材容器 2 は、第 1 実施形態の棒状基材容器 1 と対比すると、外筒 32 の形状が外筒 12 とは異なり、またそれに応じて、受皿 43 における棒状基材ホルダーの保持の仕方が受皿 23 におけるのとは異なる点で相違している。

[0030] 以下、主に上記の相違点に関わる点について説明する。棒状基材容器 2 は、棒状基材ホルダー 30 と、この棒状基材ホルダー 30 の一部を内部に収めるキャップ 40 とから構成されている。棒状基材ホルダー 30 は、概略四角筒状に形成された外筒 32 と、この外筒 32 を保持した概略直方体状のホルダー本体 33 と、一端側が外筒 32 の内部に保持された中筒 34 とを有している。中筒 34 の内部には、先に説明した中皿 15 と同様の中皿が配置され、その中皿に口紅 36 が保持されているが、図 5 では中皿を省略し、口紅 36 が中筒 34 から外に出た状態を示している。

[0031] 一方キャップ 40 は、収容箱 42 と、この収容箱 42 の内部空間に収容され得る受皿 43 とから構成されている。収容箱 42 は長さ方向の一端 42b に開いた開口 42a を有しており、上記内部空間はこの開口 42a から内方に延びている。収容箱 42 の他端には、内部空間を閉じる端板 42c が形成されている。受皿 43 は、上記開口 42a から出退するように収容箱 42 に対して図 5 中の矢印 B 方向に摺動自在とされている。本実施形態でも収容箱 42 の内部空間の周壁が、図 5 に示されている部分よりも収容箱 42 の奥側において、第 1 実施形態の収容箱 22 におけるのと同様に形成されている。それにより受皿 43 は、矢印 B 方向と交わる方向には大きく動くことなく、矢印 B 方向に移動可能となっている。

[0032] 図5に示すように収容箱42から受皿43が引き出された状態とされてから、棒状基材ホルダー30は受皿43に対して、図1の矢印A方向と同様の方向に動かされて、中筒34が受皿43の上の所定位置に載る状態とされる。図5は、この状態を示している。本実施形態でも、図示は省略しているが、第1実施形態における磁石24と同様の磁石と、それに吸着する棒状の鉄製部材がそれぞれ受皿43、外筒32に取り付けられている。より詳しく説明すれば、上記磁石はその一表面が、受皿43の外筒32側の端面と整合する状態に取り付けられ、上記鉄製部材はその一表面が、外筒32の受皿43側の端面と整合する状態に取り付けられている。そして、それらの磁石と鉄製部材とが吸着することにより中筒34は、受皿43の上の所定位置に保持される。

[0033] ただし本実施形態では、第1実施形態におけるのとは異なって、中筒34が受皿43の上の所定位置に保持されたとき、棒状基材ホルダー30の外筒32は受皿43の上に載らずに、受皿43の前端面と突き当ての状態となる。受皿43、中筒34にそれぞれ設けられた磁石の取付位置は、中筒34を受皿43において上記所定位置に保持させるように設定されている。

[0034] こうして中筒34が、受皿43の上の所定位置に保持された後、例えば棒状基材ホルダー30のホルダー本体33を収容箱42の方に押して、受皿43を収容箱42に押し込むことにより、中筒34がつまり口紅36が収容箱42の中に収容される。図6はこの状態を示している。この状態になると、ホルダー本体33の端面33aと収容箱42の一端42b（共に図5参照）と接して、ホルダー本体33が収容箱42の開口42aを閉じる。そこでこの場合も、収容箱42の内部にゴミや埃などが入ることが防止される。

[0035] 以上、棒状の口紅を収容する容器として構成された棒状基材容器の実施形態について説明したが、本発明の棒状基材容器は口紅以外の棒状基材、例えば前述したスティック糊を収容する容器として構成することも可能であり、そうした場合も同様の効果を奏するものである。

符号の説明

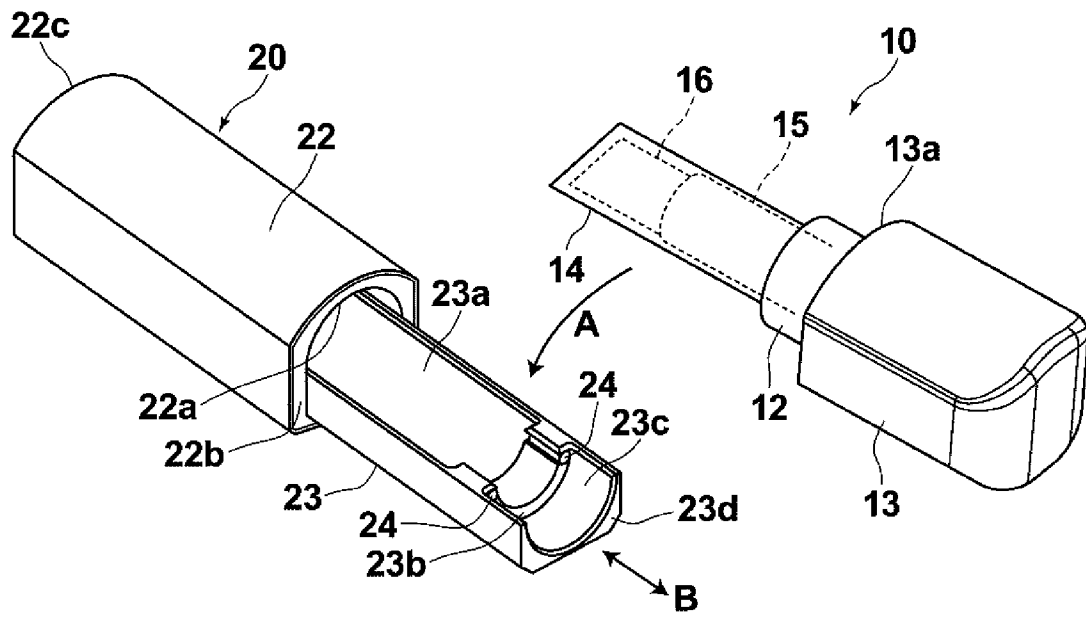
- [0036]
- 1、2 棒状基材容器
 - 10、30 棒状基材ホルダー
 - 12、32 外筒
 - 13、33 ホルダー本体
 - 14、34 中筒
 - 15 中皿
 - 16、36 口紅
 - 20、40 キャップ
 - 22、42 収容箱
 - 23、43 受皿
 - 24 磁石

請求の範囲

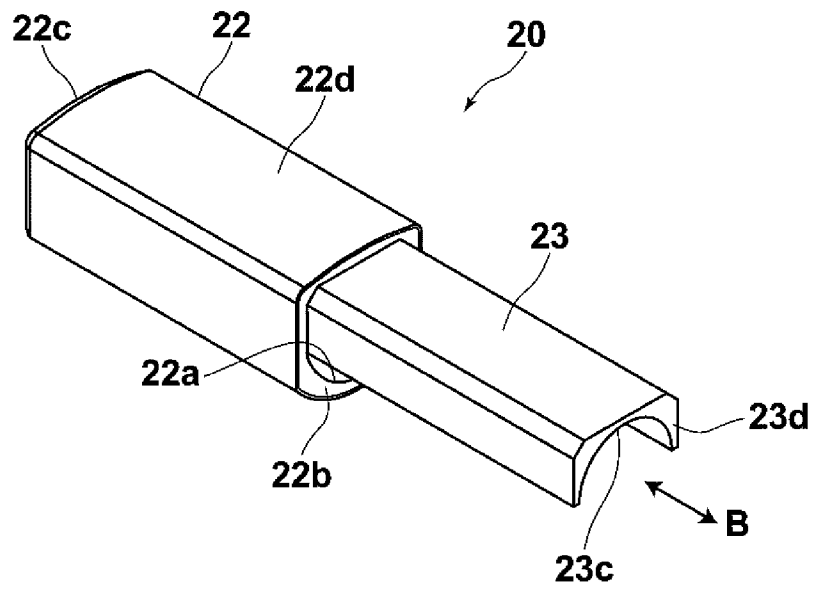
- [請求項1] 棒状基材を収容する中筒と、この中筒を保持する把持部とを有する棒状基材ホルダー、および、この棒状基材ホルダーの中筒を内部に収めるキャップからなる棒状基材容器であって、
- 前記キャップが、長さ方向の一端に開口を有する収容箱と、前記開口から出退するように前記収容箱に対してその長さ方向に摺動自在とされた受皿とから構成され、
- 前記受皿の一部の所定位置に上方から取り外し自在に載せられた前記棒状基材ホルダーを保持するホルダー保持手段が設けられ、
- 前記受皿に前記棒状基材ホルダーを保持させてから前記受皿を前記収容箱に押し込むことにより、前記中筒を収容箱内に収めるように構成された、
- ことを特徴とする棒状基材容器。
- [請求項2] 前記棒状基材ホルダーの把持部は、前記中筒が前記収容箱内に収められた状態において、該収容箱の開口を閉じるように構成されている請求項 1 に記載の棒状基材容器。
- [請求項3] 前記ホルダー保持手段が、前記棒状基材ホルダーおよび受皿にそれぞれ取り付けられて互いに磁力で吸着する手段から構成されている請求項 1 または 2 に記載の棒状基材容器。
- [請求項4] 前記受皿の裏面に、化粧用具が取り付けられている請求項 1 から 3 いずれか 1 項に記載の棒状基材容器。

[図1]

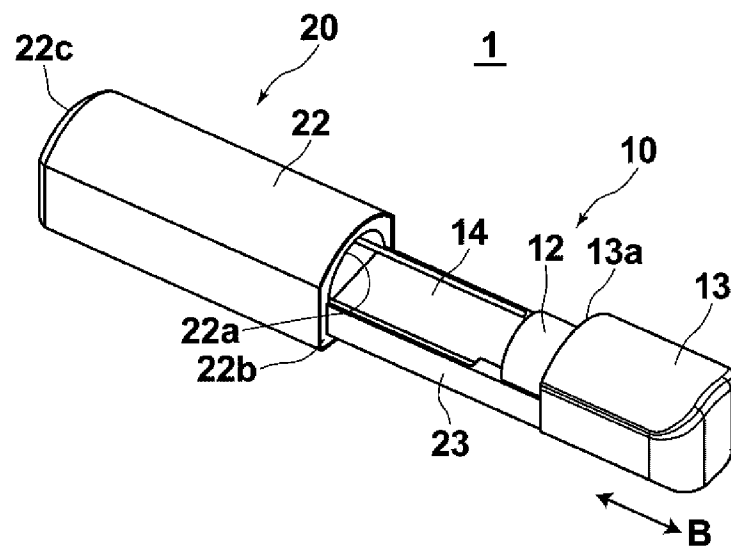
1



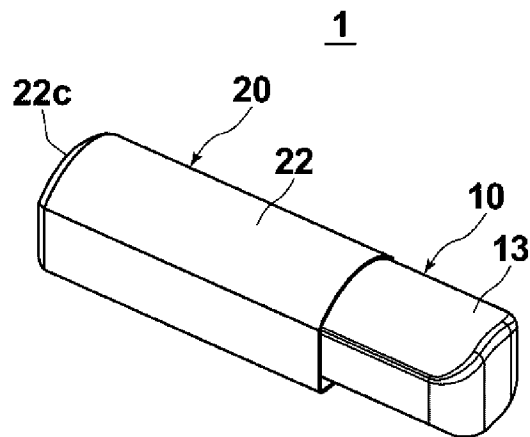
[図2]



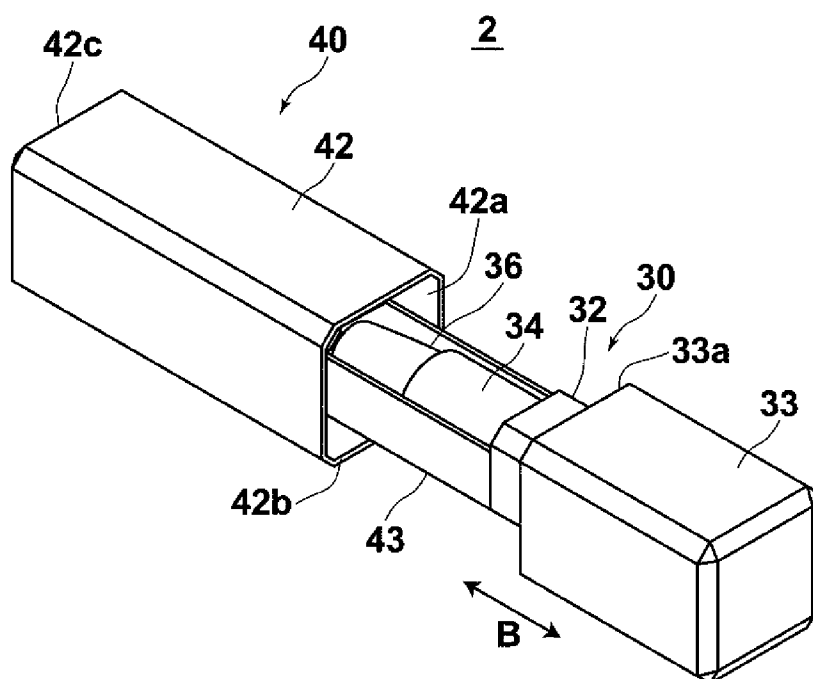
[図3]



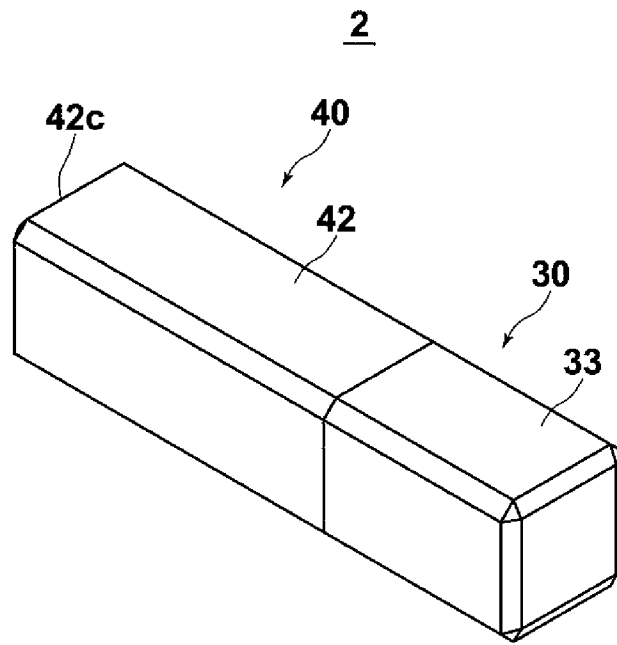
[図4]



[図5]



[図6]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2020/023770

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A45D 40/00 (2006.01) i

FI: A45D40/00 L

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A45D40/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan	1922-1996
Published unexamined utility model applications of Japan	1971-2020
Registered utility model specifications of Japan	1996-2020
Published registered utility model applications of Japan	1994-2020

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 83351/1989 (Laid-open No. 22717/1991) (HONDA PLUS CO., LTD.) 08.03.1991 (1991-03-08) specification, page 5, line 2 to page 10, line 2, page 10, line 10 to page 11, line 2, fig. 1-6	1-4
Y	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 122347/1987 (Laid-open No. 28208/1989) (YOSHINO KOGYOSHO CO., LTD.) 20.02.1989 (1989-02-20) specification, page 1, line 16 to page 6, line 6, fig. 1-6	1-4
Y	US 2019/0183230 A1 (AXILONE PLASTIQUE) 20.06.2019 (2019-06-20) paragraphs [0060]-[0061], fig. 1A-5	3-4



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"I" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
28 September 2020 (28.09.2020)Date of mailing of the international search report
06 October 2020 (06.10.2020)Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2020/023770

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 149522/1979 (Laid-open No. 69210/1981) (FUJIMURA, Takuya) 08.06.1981 (1981-06-08)	1-4

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

International application No.

PCT/JP2020/023770

Patent Documents referred in the Report	Publication Date	Patent Family	Publication Date
JP 3-22717 U1	08 Mar. 1991	(Family: none)	
JP 64-28208 U1	20 Feb. 1989	(Family: none)	
US 2019/0183230 A1	20 Jun. 2019	JP 2019-524372 A paragraphs [0059]- [0060], fig. 1A-5 WO 2018/037170 A1 EP 3503760 A FR 3055197 A KR 10-2019-0032525 A CN 109688865 A	
JP 56-69210 U1	08 Jun. 1981	(Family: none)	

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC）） A45D 40/00(2006.01)i FI: A45D40/00 L														
B. 調査を行った分野 調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC）） A45D40/00 最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの <table border="0"> <tr> <td>日本国実用新案公報</td> <td>1922 - 1996年</td> </tr> <tr> <td>日本国公開実用新案公報</td> <td>1971 - 2020年</td> </tr> <tr> <td>日本国実用新案登録公報</td> <td>1996 - 2020年</td> </tr> <tr> <td>日本国登録実用新案公報</td> <td>1994 - 2020年</td> </tr> </table> 国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）			日本国実用新案公報	1922 - 1996年	日本国公開実用新案公報	1971 - 2020年	日本国実用新案登録公報	1996 - 2020年	日本国登録実用新案公報	1994 - 2020年				
日本国実用新案公報	1922 - 1996年													
日本国公開実用新案公報	1971 - 2020年													
日本国実用新案登録公報	1996 - 2020年													
日本国登録実用新案公報	1994 - 2020年													
C. 関連すると認められる文献														
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号												
Y	日本国実用新案登録出願1-83351号(日本国実用新案登録出願公開3-22717号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム（本多プラス株式会社）08.03.1991（1991-03-08）明細書第5ページ第2行目－第10ページ第2行目、第10ページ第10行目－第11ページ第2行目、第1図－第6図	1-4												
Y	日本国実用新案登録出願62-122347号(日本国実用新案登録出願公開64-28208号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム（株式会社吉野工業所）20.02.1989（1989-02-20）明細書第1ページ第16行目－第6ページ第6行目、第1図－第6図	1-4												
Y	US 2019/0183230 A1 (AXILONE PLASTIQUE) 20.06.2019（2019-06-20）[0060]-[0061], FIG. 1A-FIG. 5	3-4												
A	日本国実用新案登録出願54-149522号(日本国実用新案登録出願公開56-69210号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム（藤村 拓也）08.06.1981（1981-06-08）	1-4												
☐ C欄の続きにも文献が列挙されている。 ☒ パテントファミリーに関する別紙を参照。														
<table border="0"> <tr> <td>* 引用文献のカテゴリー</td> <td>“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの</td> </tr> <tr> <td>“A” 特に関連のある文献ではなく、一般的な技術水準を示すもの</td> <td>“X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの</td> </tr> <tr> <td>“E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの</td> <td>“Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの</td> </tr> <tr> <td>“L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）</td> <td>“&” 同一パテントファミリー文献</td> </tr> <tr> <td>“O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献</td> <td></td> </tr> <tr> <td>“P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献</td> <td></td> </tr> </table>			* 引用文献のカテゴリー	“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの	“A” 特に関連のある文献ではなく、一般的な技術水準を示すもの	“X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの	“E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの	“Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの	“L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）	“&” 同一パテントファミリー文献	“O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献		“P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献	
* 引用文献のカテゴリー	“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの													
“A” 特に関連のある文献ではなく、一般的な技術水準を示すもの	“X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの													
“E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの	“Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの													
“L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）	“&” 同一パテントファミリー文献													
“O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献														
“P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献														
国際調査を完了した日 28.09.2020	国際調査報告の発送日 06.10.2020													
名称及びあて先 日本国特許庁(ISA/JP) 〒100-8915 日本国 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	権限のある職員（特許庁審査官） 柿沼 善一 3K 3530 電話番号 03-3581-1101 内線 3332													

国際調査報告
 パテントファミリーに関する情報

国際出願番号

PCT/JP2020/023770

引用文献			公表日	パテントファミリー文献	公表日
JP	3-22717	U1	08.03.1991	(ファミリーなし)	
JP	64-28208	U1	20.02.1989	(ファミリーなし)	
US	2019/0183230	A1	20.06.2019	JP 2019-524372 A	
				段落 0059-0060、	
				図 1A-図 5	
				WO 2018/037170 A1	
				EP 3503760 A	
				FR 3055197 A	
				KR 10-2019-0032525 A	
				CN 109688865 A	
JP	56-69210	U1	08.06.1981	(ファミリーなし)	